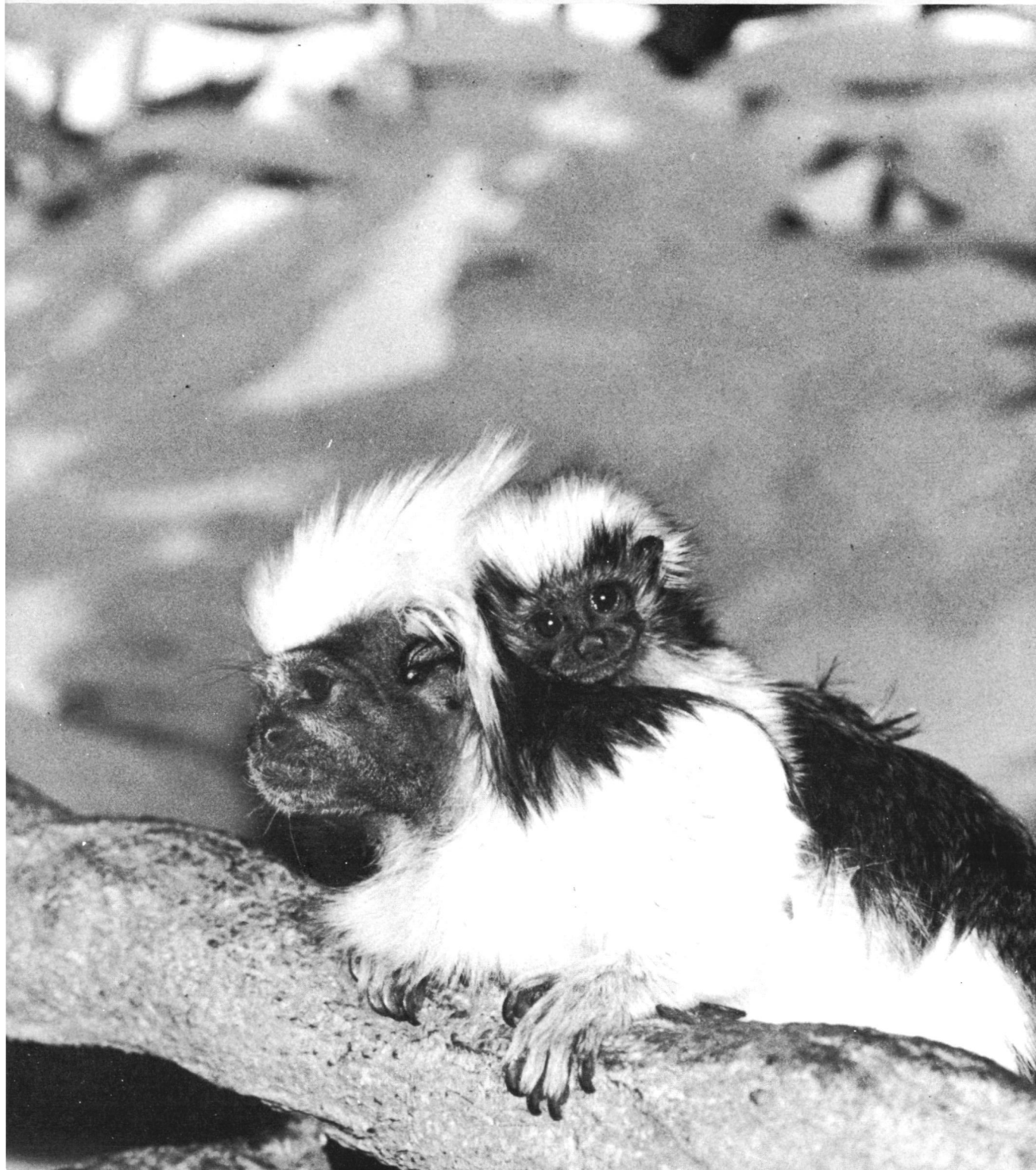


どうぶつこうえんニュース

 **千葉市動物公園**
Chiba Zoological Park

第3号



イノブタ誕生 顛 末

中村 民男

精神科 医療法人 中村病院長



耕運機のない頃は、田畑を耕す主役は牛や馬であった。これに犁を引かせ土を掘り起すのである。日本の田畑は、小さく区切られているので行っては引きかえし、行っては引きかえすので、一日何十回と方向転換をくりかえすことになる。四つの足のどの足を軸にして向きをかえたら労力や疲労が少なくてすむか。市内青葉町の農林省農業技術研究所（もとの畜産試験場）でこんな研究をされていたT先生から運動を分析したいので16mmで撮影してくれと依頼を受けた。昭和30年頃だったと思う。こんなことで、この研究所に出入りするようになった。現在では一般的になったが、当時優秀な牝牛に人工授精し、卵を取り出して他の牝牛の子宮内に移植すると、優秀な牝牛を痛めず、沢山の優秀な子供が出来る。こんな研究をしているなどと聞いて度ぎもを抜かれたのをおぼえている。

また、胴の長い豚を作ると肉の歩留りがいい、それがためには背椎の数の多い豚を作ればいい。人間の背椎は大体26個といわれているが、豚の場合は品種や個体によって多い少ないがある。そんなことからヨークシャー、バークシャー、ランドレース等沢山の子豚の骨を調べている。成長してからだを解剖して数えなければならぬが、生後間もないうちだとレントゲン写真によって調べることが出来るという。撮影がおわった子豚たちはこの研究室では用済みとのことなので、支那豚と猪の払下げを受けた。これが成長した時にかけ合せ雄4、雌3頭が生れた。飲み仲間だった読売新聞記者F君と「イノブタ」と名づけた。彼の原稿は夕刊記事となり、紙面を賑わした。研究所などではなく、精神病院で生まれたことが面白かったのだろう。その後もテレビや週刊紙などにもとりあげられた。NHKの人気番組だった「私の秘密」にもイノブタ君出演？ 今日では、イノブタの名も定着し珍らしくない存在となった。

（精神科 医療法人 中村病院長）

表 紙

ワタボウシパンシェの親子…	1
どうぶつと私……………	2
ねんど・写生コンクール入賞作	3
動物愛護特別講演「トキ」……	4
作文コンクール入賞作…………	5
写真コンクール入賞作…………	6
新春特別講演「トラ」…………	7
飼育日誌から……………	8・9
新着・出生動物一覧……………	10
健康管理センターから……………	
飼育よもやま話……………	11
案内図・お知らせ……………	12

表紙の動物説明

●ワタボウシパンシェ

サルの中間のタマリンの一種で、この種だけパンシェと特別な名前と呼ばれますが、この名前はフランスのビュホンが最初につけたとされ、由来はよくわかっていません。

体長25cmくらいで長い4肢をもち、尾も長く35cmほどあり、顔には毛がなく、黒く、いかめしい顔つきをしています。

ワタボウシの名のとおり、頭の上に真白い長い毛があります。

分布はせまく、南アメリカのコロンビア北部の熱帯雨林に住んでいます。

昼行性で、食べものは果実・昆虫・鳥の卵などです。雄雌とその子どもからなる群れでくらしています。子守りは雄が行い、授乳時だけ雌に子をわたします。

当園の子どもは、11月8日に生まれました。生まれたときは、体の長さ10cmくらい、体重40gくらいでした。

動物飼育数

（1986年1月31日現在）

哺乳類	65種	372点
鳥 類	58種	243点
ハ虫類	5種	25点
両生類	3種	5点
魚 類	1種	3点
計	132種	648点

動物写生教室入賞作品

〈実施日 昭和60年 8 月25日〉



金賞 牧野 理絵 10才



銀賞 エグリ・ジン 6才



銀賞 榎本 美子 10才



銅賞 石橋まりこ 8才



銅賞 塩田かほり 4才



銅賞 松岡 留美 7才

動物ねんど教室入賞作品

〈実施日 昭和60年10月20日〉



小学4年



小学3年



小学4年



小学4年



小学3年



小学2年

滅びゆく動物たち

トキの保護について

宗 近 功

千葉市動物公園園長

日本には今、世界中の鳥学者が注目していることがあります。それは日本と中国にのみ生息しているとされる「国際保護鳥」に指定されている「トキ」を絶滅から救う最後の努力がされているからです。

トキの仲間は世界中に26種が生息していますが、この中の6種については絶滅が心配され「トキ」もこの中に含まれております。

〔トキの名称〕

トキはコウノトリ目トキ科に分類され、和名はアカサギ、ハナグサリ、ドウ、トキなどさまざまな名前と呼ばれております。

トキがヨーロッパに知られたのは、日本に滞在していたシーボルトが採集し、オランダのライデン博物館のテミンクに送り、テミンクはこれに「アイビス・ニッポン」と言う学名を付け、学会に発表、その後、ドイツ人ラインバッハはニッポニアと言う新しい属をつくり、現在では「ニッポニア・ニッポン」とされ、英名を「ジャパニーズ・クレスティッド・アイビス」とつけられています。つまりトキは「コウノトリ目トキ科トキ属トキ」で一属一種なのです。

〔分 布〕

トキは東北アジアにのみ分布する種類で、その生息地は、シベリヤ東部、中国東北部、朝鮮、日本などに広く分布しておりますが、今日では中国東北部と日本に生息するのみとなっております。

日本では、江戸時代に各地でみることが出来ましたが、昭和20年10月島根県隠岐の島でその跡を断ち、昭和46年能登半島で最後の1羽が捕獲され、佐渡へ移され、この時点で、佐渡ヶ島にのみ生息することになったのです。その後、佐渡の5羽も昭和56年1月捕獲され、飼育下に移されたのです。これで日本の野生トキは、いなくなってしまい昭和60年現在、中国でのみ野生のものが確認されております。

〔トキの保護の歴史〕

鳥追い歌にも歌われ、きらわれたトキもその人なつこさから狐の対象となり、その数をへらし、大正14年には、ほろびてしまったとされていました。

昭和元年夏、九州の河口氏が佐渡で生息調査を行い、その生存を確認、その後多くの人々によって確認され、農林省もこれを受け、昭和2年12月、トキの保護に乗り出し、トキの捕獲を禁止し、佐渡の各村にトキ保護の標識を立てました。昭和9年天然記念物に指定されましたが、この時すでに100羽前後しか生息していませんでした。

その後におこった第二次世界大戦でその数をますますへらし、地元の人々はこれをうれい、昭和28年おくれればせながら

新潟県野鳥愛護会総会でその保護策を検討し、農林省への保護許可を申請いたしました。昭和35年に東京で開催された第12回国際鳥類保護会議において、トキが国際保護鳥に指定されました。この時、なんとその数7羽を数えるだけとなっていました。

その後、地元の人々は保護に力を入れ、昭和42年1月には新穂村山中清水平に繁殖センターを設置、人工増殖にのり出したのです。



〔人工増殖の試み〕

人工増殖の案はすでに昭和28年、新潟県野鳥愛護会総会でトキの保護対策が検討され、この中でトキは、絶滅寸前であるため人工的に繁殖させ、放鳥したいので人工ふ化の許可を受けたいとの希望が農林省へ提出されましたが、受け入れられず、昭和42年のセンター完成までの間に23羽から12羽へと減少してしまい、手おくれの感がしました。

この様な状況下で、日本動物園水族館協会は独自の考えでトキの保護、飼育の研究のため都立の動物園の職員により昭和43年7月「トキ保護実行委員会」を発足させ、翌年文化庁は日本動物園水族館協会にその研究を委託し、本格的な基礎研究に入りました。

その研究項目は次のとおりです。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 飼料の人工化 | (3)人工発情実験 |
| (1)人工飼料の作製 | 3. 臨床関係 |
| (2)餌の切り替え | (1)寄生虫の調査 |
| (3)人工飼料の使用成績 | (2)血液性状の調査 |
| 2. 飼育下におけるトキ類の繁殖 | (3)クチバシの負傷と治療 |
| (1)自然繁殖の行動観察 | (4)麻酔方法の研究 |
| (2)人工ふ化・育すう | (5)解剖記録の集計 |

この様な項目について5年間研究をつづけた結果、実験に使ったクロトキ、シロトキ、ショウジョウトキがそれぞれ繁殖する様になり、自然繁殖はもとより、人工ふ化育すうにも成功、育すうにも自信がつき、昭和53年4月、私と中山技師の2人で、地元の人々が採卵したトキの卵3個を空輸し、上野動物園で人工ふ化を試みました。残念ながら無精卵で、ふ化には至りませんでした。

野生での保護に限界を見たため昭和55年12月から56年2月にかけて全羽(5羽)を捕獲し、飼育下におきました。その後3羽が事故で死亡、中でも1羽のメスは卵すまりで死亡したのはかえすがえすも残念なことでした。

今後の課題として人工受精の導入、中国から新しい個体の導入などが検討されております。

滅び行くものは美しいとの言葉のとおり、佐渡の山中でみた「トキ色」をまた日本の空で見る日が来る事を期待したいと思います。

作文コンクール受賞作品

動物公園

みつわ台南小3年 井上 一幸

サマースクールにさんかして、ウサギをだいたし、毛はかたかったけれど、体温はあたたかでした。モルモットは、毛もやわらかで、体温もあたたかでした。モルモットは、耳をなでてやったりすると、かすかに、「キュウ、キュウ」と鳴いていました。でも、らんぼうに持ったりすると、かみつられました。カボチャ、リンゴ、メロン、ニンジンなどをやってみると、ニンジンをよく食べました。

ウサギは、ニンジンとリンゴをよく食べました。石ガメ、クサガメは、やってもなにも食べませんでしたが、クサガメが、おちていたニンジンをかじっていました。かじっている時、口の中をのぞいてみたら、歯のような、みじかいいたのようなものがあって、それでかじっていました。

ヒツジの毛は、油があるので、ベタつきました。もっているだけで、しぜん、手があたたかくなりました。

ヤギのツメを切って、終わった時、ヤギのフンをけとばしてしまいました。でも、ベトツとしてなくて、かたそうだったので、つまでみると、コチコチで、あまりくさくありませんでした。たった今したばかりのフンもそうでした。

ビーバーにリンゴをやっている時、しいうがかりのおねえさんが、「気をつけないとかみつかるよ」といいました。でも、平気でなぞっているおにいさんがいたので、「ほくも」とつられてなぞてみると、毛はかたかったけど、とてもあたたかくて足には大きな水かきがついていました。

2とうのカワウソは2ひきのエサのコイを、とびつくようにしてつかまえていましたが、ちゃんとコイは1とう1びきづつでした。

じゅんばんにならんで、ペンギンに魚をやっている時、ペンギンが魚をとるのがあまりにも早かったので、魚というかんじがしなくなって、ただ手の中を通ったヌルツとしたものというかんじでした。取るというより、ひったくるでした。すぐそばに、カピバラという大きなネズミと、ハシビロコウというコウノトリがいました。

「このハシビロコウ、にげないの」ときいたら、「前はしいうきでかってたけど、外に出して何回もにげそうになったことがあるから、羽を切っているんだよ」とおしえてくれました。「羽はのびないの」ときいたら、「のびるから、すこしとぶよう

になると、また羽を切るんだよ」と教えてくれました。

そばに、チンチラの小屋がありましたが、いませんでした。

アライグマかな、と思っていると、しいうがかりの人が、「レッサーパンダだよ」と教えてくれました。

オガサワラオオコウモリもいました。へやの天井の金アミにぶらさがっていました。

フタバシコオロギという、とっても小さなコオロギがいました。エンマニオロギにもようがよくなっていて、ちょうど、エンマコオロギのちょうミニ形というかんじでした。「キリキリ、チリチリ」となっていました。

鳴きかたがマンドリンという楽きの音になているな、と思いました。

同じへやに、アオショウビンというカワセミがいました。ぼくは、アオショウビンを、ぜつめつしたミヤコショウビンとまちがえて、「これ、ぜつめつしたんじゃない」と聞いたら、「これはアオショウビンだよ」と言われて、はずかしい思いをしました。

外に出たら、大きな池があつて、ガチョウがいましたが、白いガチョウと黒いガチョウがいました。

大きなたてものの中に、かわいいはつかねずみがいて、しっぽをもったら、しきりのようなすじがあつて、ざらつとしていました。

そばに、モルモットを入れた水そうがありました。はいいろとちやいろと白の三毛でした。

ちがう水そうの中に、シマヘビがいて、だっぴのヌケガラを入れました。しっぽの手ざわりは、ちょうど、はつかねずみと同じようなかんじがしました。

とても楽しかったので、また来年も参加したいです。

《作文コンクール授賞者》

金賞	井上 一幸 3年	努力賞	安藤志津枝
銀賞	三宅 敬英 6年	〃	松本美代子
〃	清富 圭子	〃	高橋 香織 6年
銅賞	中山 和子	〃	秋葉 幸 4年
〃	垣屋 陽孝 2年	〃	松本 真沙 2年
〃	吉野 晴義	〃	中野 豊 幼稚園
努力賞	田上 航 5年		

動物写真コンクール入賞作品

〈実施日 昭和60年11月10日～昭和60年11月30日〉

ヒツジと女の子



銀賞 鉄島 正年

ガチョウ



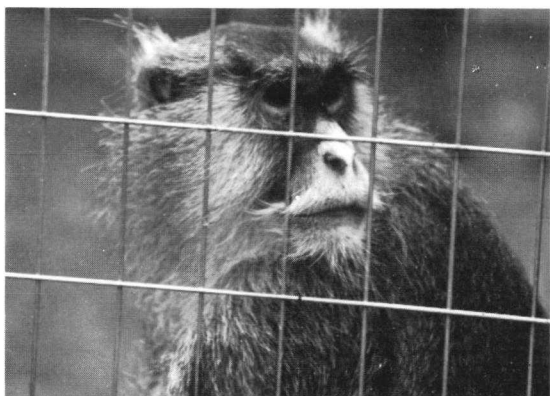
銅賞 藤巻 豊

オランウータン



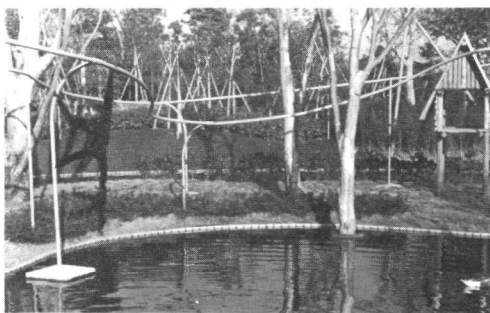
銅賞 松隈 毅

パタスザル



銅賞 西藤 和夫

テナガザル



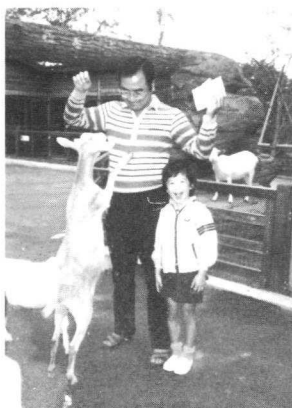
努力賞 早川 正実

アオシヨウビン



努力賞 木村 暢宏

父と娘のヤギ



努力賞 高田 美恵

リスザル



努力賞 西川宏三郎

新春特別講演

昭和61年1月12日 動物科学館レクチャールーム

「トラ」

講師 動物写真家 田中 光常

あちこちの児童雑誌社より子どもさんのための本がたくさん出されています。その中で現在出されているものには、私の猫だけを10年間写しまとめた写真集や私の失敗談ばかりを載せた小さい本もあります。もっとも私の気に入ったものでは、「世界の動物の朝から夜まで」という内容の本で、夜中のキツネやヒョウの様子などを一冊にまとめたものがあります。

インドの野生動物、とくにトラの撮影をする時にどんなものに乗って撮影するでしょうか。例をあげてみますと、象の背に乗っていく場合と、普通乗用車、又は四輪駆動のジープのような乗物に乗っていく場合、あるいは、マチャンという観察塔に登ってトラがくるのを待って写すという方法もあります。



インドには、100以上の国立公園や動物保護区があり、主にトラを保護している所は15ヶ所程あります。なかでも、ネパールの近くにあるドドアという国立公園は、トラとかシカなど野生の動物がたくさん生息し、ここを訪れた人は公園の中にある立派なロッジに宿泊し、動物を車で見てまわります。凄く暑いところでしたが、私は、早朝からマチャンに登り、トラがくるのを待ちましたが、一日目は現われませんでした。そして二日目の朝、私がこのような所から出てきてほしいと思っていた所から現われ、水飲み場の方へゆっくり歩いて行きました。



夜行性の動物なので、こんな広い所へ昼間から現われるはずがないと思っていたので夢中で写しました。やがて水を飲み終ったトラは、何も気づかずに私のいるマチャンの下10～20m位の所まで近づき、そこで、はじめて私の存在に気づきすごい顔つきで怒りました。たいていの動物は、人間の存在に気がつけば逃げるのですが、トラは怒りながら私の方に向かってこようとしました。このようなことから、トラはとても強い動物なんだなあと思いました。もしかすると、百獣の王ライオンよりも強いのかもかもしれませんね。

次に、トラの保護区になっているサリスカという所の事をお話ししましょう。ここでは、トーチカというコンクリートの低い建物の中で、トラが夜中に水を飲みにくるのを待ちました。このトーチカには、小さい窓がついていますが、中は真っ暗です。



真夜中になって、遠くの山の方でアキシスジカやサンバー(シカ的一种)が鳴くといよいよトラのお出ましです。眼の前の池の水を飲む音が聞こえると、トラかと思いライトをつけてしまいましたが、ヤマアラシやシカだったりしてがっかりすることが度々ありました。そんなふうに何度もライトをつけたために、トラが近よらず二晩そこで夜を明かしましたが、ついに写すことができませんでした。

今日では、法律によって完全に保護されていますがトラは極めてわずかな地域に追いつめられた状態になっているようです。トラの減少した原因は、生息地の破壊、餌となる動物の減少、そして密猟だと言われています。このようにトラの未来は、まだまだ暗い現在となっています。

飼育日誌から

昭和60年10月 1 日～昭和61年 1 月31日

- 10月2日 コノオビアルマジロの体重測定アルマ（メス）4.05kgジロー（オス）4.35kgピクトリア（メス）1.94kg
- 10月3日 オセロットの子目が開く。（9月24日生れ）スミレコンゴウインコ羽根切り行う。
- 10月4日 スイギュウ生まれる（メス）1.7kg
アジルマンガベイ交尾
ヒツジ（サフォーク）2頭腰ふらつく。
- 10月5日 オウギアイサ（オス）冠羽はえる。
台風来る。
- 10月7日 ワオキツネザル交尾
- 10月10日 マーコール、オスのあごひげ生えてきた。
スイギュウの乳の出が悪いので人口哺乳。
クイズラリー（参加者 1,033人）
映画会「減びゆく野生の動物」230名



クイズラリー風景

- 10月13日 オセロット 子をくわえて時々外へ出す。
映画会「ニューギニアの自然」480名
- 10月15日 オセロット 子が展示場へでるが自力でもどる。
ハイロクスクス体重測定 オス2.62kg、
メス2.24kg
ムフロン（オス） 角つきをする。
- 10月16日 オオカナダズル外へ出すとよく鳴く。
- 10月18日 ブタオザル交尾



ねんど教室

- 10月20日 動物ねんど教室（参加者88名）
- 10月21日 アジルマンガベイ交尾
ニワトリ、ヤケイ、ウズラ、ハト、シチメンチョウ、ニューカッスル、予防接種
- 10月24日 船橋保健所より見学
- 10月25日 ニホンザル（子ザル）入れ墨を行なう。
ニホンザル破傷風予防注射
- 10月26日 北海道士別めん羊牧場へ
ヨツヅノヒツジ（子、メス）貸し出し。
- 10月28日 カエル、カメ冬眠させる。
鳥の卵の標本展示を飼育センターで始める。
カワウソ体重測定 オス11.5kg、メス12kg
- 10月29日 ブタオザル交尾
アジルマンガベイ交尾
- 10月30日 ミニブタ交尾
ハイロクスクス 巣箱設置
チンパンジー（ペンタ）発情開始
オランウータン 凝岩の下を掘り破壊する。
- 11月1日 アジルマンガベイ交尾
ミニブタ交尾
- 11月2日 ブタオザル交尾
ミニブタ交尾
ヒツジ（コリデール：かすみ）手術（回腸に閉塞部あり）
- 11月3日 アビシニアコロブス交尾
- 11月5日 オセロットの子 マウスでよく遊ぶが食欲がない。
ルリコンボタンインコのひな巣立つ。
スイギュウ 角つきをする。
- 11月6日 ムフロン（オス）角つきをする。
- 11月7日 コウラウン（オス）2、（メス）3 新着
- 11月8日 ムフロン（オス）闘争
- 11月10日 アジルマンガベイ交尾
動物ねんど教室、作文コンクール授賞式（子供動物園野外ステージ）
- 11月12日 ヤギ シラミよけ薬剤の散布を行う。
マーコール（オス）とムフロン（オス）金網ごしに角つきをする。



映画会

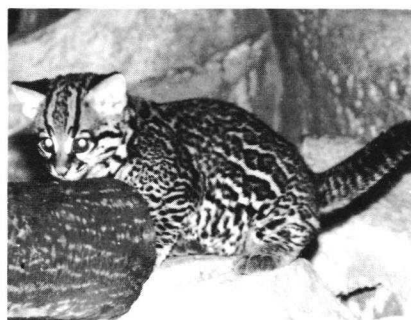
- セイロンヤケイ産卵
 11月13日 ニホンザル交尾
 マガモ(オス) 冬羽に換羽
 11月16日 ミニブタ交尾
 11月17日 動物映画会「パンダのふるさと」
 11:00~12:00 200名
 13:30~14:30 250名
 11月18日 ボト 巣箱つける。
 ビクーナ、シチメンチョウじゃれあう。
 11月19日 オセロットの子マウスを食べるようになる。
 オウギアイサ ディスプレー行動
 ミニブタ交尾
 11月20日 ミニブタ交尾
 11月21日 フクロテナガザル(オス)が(メス)を追いつながら 共に鳴く。
 スイギュウ交尾
 ヨーロッパバイソン交尾
 11月22日 トナカイ 真砂土たべる。
 11月25日 トナカイ(オス) ぶくろ角、はげてくる。
 11月30日 アジルマンガベイ交尾



トナカイ

- 12月1日 モルモットの足の裏に個体識別用イレズミ。
 紙芝居「ウサギの成長」を子ども動物園ではじめる。
 12月8日 ハタスザル交尾
 ブタオザル交尾
 12月13日 ニホンザル交尾
 12月15日 フクロテナガザル 盛んに鳴き合っていた。
 動物映画会「自然の王国」350名
 12月17日 ニホンザル交尾
 マガモ(オス) 換羽終了
 12月19日 オセロットの子親から離す。
 ワタボウシバンシェ、セマダラタマリンの子、親から離れて運動、採食している。
 12月21日 マントヒヒ交尾
 オセロット ネコジステンパーの予防注射
 12月23日 ニホンザル破傷風予防注射
 12月24日 マーコール 交尾しようとする。
 12月25日 神奈川動物保護センターより視察。

- 12月28日 アジルマンガベイ交尾
 フクロテナガザル 盛んに鳴き合っていた。
 12月30日 オセロット交尾
 12月31日 ヨーロッパバイソン 交尾しようとする。
 ボト体重測定 オス1.07kg、メス1.12kg
 1月1日 保護されたカルガモ大池に放す。
 1月5日 オセロットの子体重測定 3.4kg(9月24日生)
 スイギュウ交尾



オセロット

- 1月6日 飼育研究会
 1月8日 マンドリル交尾
 1月12日 新春特別講演「トラ」田中光常(動物写真家)
 1月13日 アジルマンガベイ交尾
 1月15日 つくば博よりソーラー時計寄贈
 1月16日 オウギアイサ求愛行動が盛んになる。
 1月17日 ニホンザル交尾
 1月19日 マントヒヒの子下の歯が出始める。
 1月21日 ビクミーマーモセット動物科学館で展示を始める。
 1月23日 エリマキキツネザル闘争する
 1月24日 アジルマンガベイ交尾
 1月27日 スイギュウ交尾



マントヒヒの子

新着動物

(昭和60年10月1日～昭和61年2月28日)

■ほ乳綱

※寄贈動物

●ゲツ歯目

ビーバー科

※アメリカビーバー ①

ネズミ科

※スナネズミ ②

※ゴールデンハムスター ②

●食肉目

イタチ科

カナダカワウソ

■鳥綱

●キツツキ目

ゴシキドリ科

ミドリハシゴシキドリ

●スズメ目

ヤイロチョウ科

ヤイロチョウ

コノハドリ科

ルリコノハドリ

ヒヨドリ科

コウラウン

寄贈者 ①釧路市 ②渡辺氏



カナダカワウソ

健康管理センターから

～ ヒツジの腹痛 ～

子ども動物園にいる羊を知っていますか？4本角のヨツツノヒツジ、顔と手足が黒いサフォーク、一番たくさんいる白いのはコリデールです。みんな名札をつけているのですよ。このコリデールの中で一番からだが大きくて、耳に赤いタグをつけている羊、そう、かすみちゃんが今回の主人公です。

ある日のお昼頃、羊担当のYさんが、かすみちゃんが今朝から元気がなくて餌を食べない、と連絡してきました。行ってみると、かすみちゃんはすわりこんでいます。特にどこかが痛いようすはないのですが、大好きな草やベレットも食わず、糞ありません。おなか少し張っているようです。羊や牛は、草を食べても栄養になるように、胃が4つもあり、腸もうんと長いので、おなかをこわすとやっかいです。とりあえず胃にガスがたまってしまう病気を疑って手当てをしましたが、夜になっても良くなりません。

次の日の朝、草を少し食べました。が、それっきりまた何も食べません。糞も出ません。どうもおなかの中に何かつまっているようです。羊や山羊は、おかしの包み紙やビニール袋を食べておなかの中でつまって

出生動物

(昭和60年10月1日～昭和61年2月28日)

10月4日	スイギュウ	1
10月20日	カイウサギ	8
11月8日	ワタボウシバンシェ	1
11月18日	セマグラタマリン	1
11月28日	コモンマーモセット	1
12月11日	セイロンヤケイ	1
12月15日	〃	1
12月24日	カイウサギ	11
12月25日	スナネズミ	4
1月1日	カイウサギ	7
1月29日	ヤギ(雑)	1
1月31日	ミニブタ	1
2月4日	テンジクネズミ	5
2月9日	スナネズミ	10
2月23日	エテプオオコウモリ	1
2月24日	〃	1
2月26日	ダマワラビー	1



コモンマーモセットの親子



セマグラタマリンの親子

しまったり、釘や針金を食べてしまうことがよくあるのです。そこでレントゲンをとってみました。釘などは入っていないようですが、からだが大きいうえに腸が長いので、細かいことはわかりません。

次の日も良くなりません。もし何かつまっているのなら、放っておいたら死んでしまいます。そこでおなかをあけてみることにしました。そうしたら、腸の一部がくっついてしまって、その周辺が死んでいます。前に針金などを食べて腸に傷がつき、それがなおるときに癒着したのでしょう。これでは食べ物を通りません。人間なら、おなか痛くてうんうん苦しがるような状態です。でもかすみちゃんはケロツとしていました。まったく羊って動物は…？死んだ腸を切りとって残りをつなぐ手術をしました。その日から入院です。

手術の翌日の夕方には食欲が出てきて、糞も出始めました。それからどんどん良くなって、一週間後に退院しました。今はほかの羊といっしょに、元氣いっぱい、メーと走りまわっていますよ。(米田久美子)

飼育よもやま話



オグロ プレーリードッグ のあそび

子ども動物園にいるプレーリードッグは、一頭一頭とても愛らしいしぐさをし、私たちを楽しませてくれます。

彼らにエサを与えに放飼場に行き、中に入ろうとすると彼らは、何頭かが天を仰ぐかのように「キューン」と短く、鋭い警戒音を発して巣穴に向かって、一直線に走っていきます。その後、巣穴の中からモグラたたきのように顔だけがヒョコ、ヒョコとでたり、もぐったりしてあたりを見まわし、大丈夫だと思つとゆっくり巣穴からでてきます。まず、まっ先にとても人なつこいメスのプレーリードッグが、私というよりもエサの方にやってきます。そのメスにエサを与えると両手でもって、座って食べます。そのしぐさがかわいく人気があります。それを見ているほかの仲間も、おそろおそろ近づいてきます。メスの次にくるのが中でも一番太ってどっしりしているオスで、“ザブトン”という名前のついているやつです。なぜザブトンの名がついた



ビーバー

我が動物公園のビーバーは、とてもスローでユーモラスです。例えば、ビーバーの前に

リングを差し出すとビーバーは、ゆっくりと鼻の頭をリングにズリズリとすりつけて、ようやく食べ物だと認めると、あの大きな前歯でリングをそっとかみ、さらに、ふところに入れていた手を、そうっと出してくるという感じで両手でリングをつかみ、ようやく人間の手からリングを受け取ります。

でも、食べる速度だけは速くて、その後は、カリカリと皮をむくように両手でまわしながら食べます。

ここのビーバーは、かなりがつついていて、この時おどかすとリングを放って逃げるのではなく、ただ食べる速度が速くなるのです。あの小さな目を見開いて何かが起こる前に、これだけは食べてしまおうとでも言うかのように、やっきになってカリカリやり始めます。そして、何事も起こらなかったと見ると、右へ左へとゆっくりと顔をまわして、辺りの安全を確かめ再

かといいますと、日中、単穴の上にチョコンと座ってあたりを見回している格好が、いかにも、ザブトンの上に座っているかのように見えたからです。そいつがくるとどきたいほかの仲間も、次から次へとエサを食べにやってきますが、9頭いるうちの2頭だけは私が放飼場の中にいる間、巣穴の中からでてきません。私が外にでてしばらくするとエサを食べにでてきます。

人によくなれたメスは、エサ入れ（陶器のエサ入れ）で遊ぶのが大好きです。石の上にエサ入れを置くと、その上でエサ入れを歯でひっかけたり、鼻でおしたりつついたりしています。その時の、カラカラという音が好らしく、エサ入れが割れてしまうまで続けます。最初は、私もこのことに気づかずに、また石の上から落ちて割れてしまったと思いましたが、一週間のあいだ3回もあったので、エサを与えてからしばらく観察していたら上に述べたようなことがわかり、ステンレスのバットに変えたのですが、今度は、それを口にくわえてエサをまき散らしすみの方へバットを持っていくしまつです。現在は、丸太を彫ってその中にエサ入れを入れエサを与えています。このようにしてからはエサもあまり散らばらなくなり、前よりは良くなったのではないかとと思っています。プレーリードッグは寒さがにがてで、今は巣の中にいてあまり外にでてきません。

でも、天気さえよければ、外で日光浴をする姿や、エサを食べている姿、穴を掘っている姿などのさまざまな一面が見られます。

（石井信一）

び食事にかかります。

ビーバーは、朝、目がさめた時や、水から上がった時、毛づくろいをするのですが、この様子がまたなんともユーモラスなのです。まず、後足で尾をまたぎ、しっぽを両足の間にひいてどっこいしょと座り、3段腹をつき出して、前足や後足の親指（第一指）と人指し指（第二指）についた毛づくろい専用のとがったカギ状のつめで、体の横の方の毛をすきます。そのあと、両手でお腹の毛づくろいに入ります。これが一番の見どころで、太った体を見下ろすように顔を下向けて、三段腹を両手でつかんでは両側に引っ張り、つかんでは引っ張りをくりかえします。まるで、脂肪をしばり出しているようで、どこかの美容教室でやってそうです。

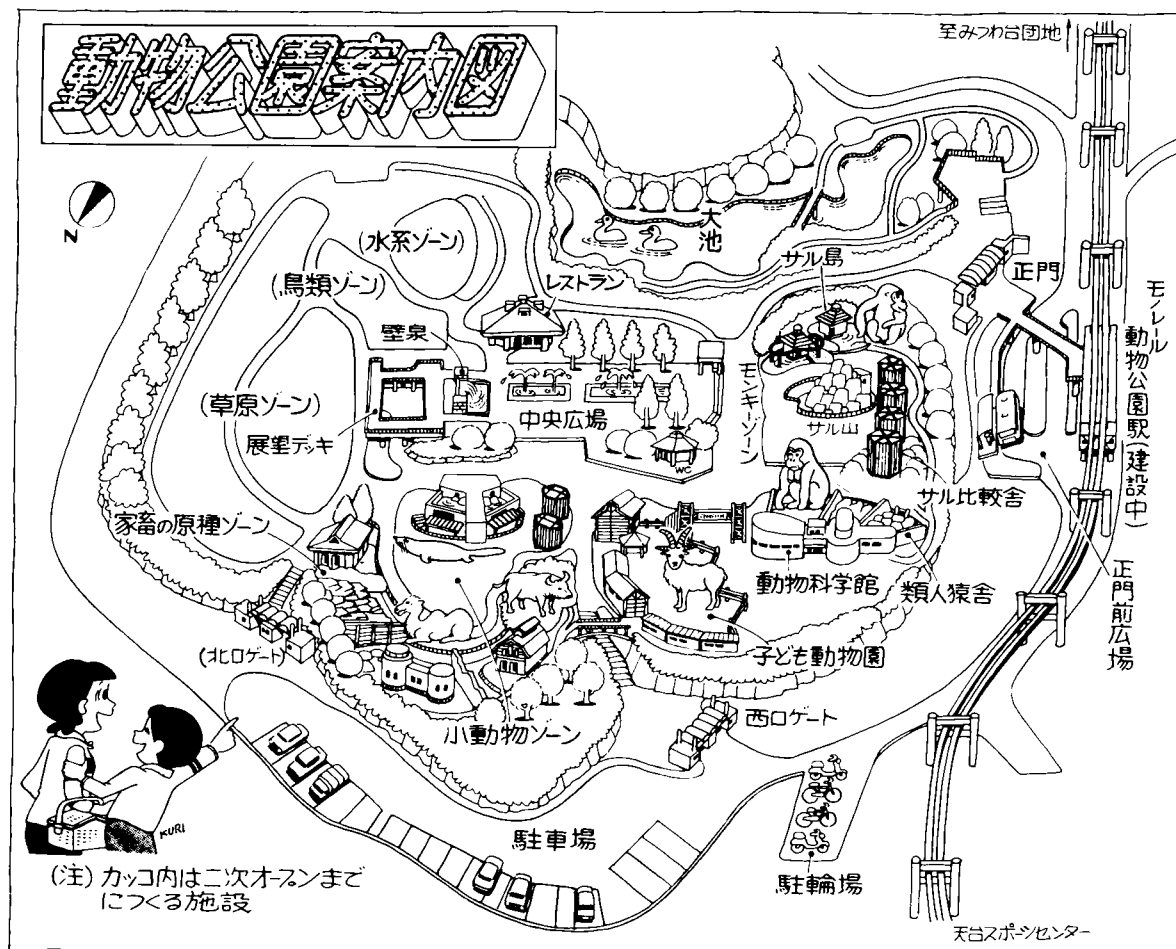
その間中、ビーバーはうっとり半分目をつぶり、じつに気持ちよさそうに見えます。こんなスローで平和なビーバーを見ているとこちらまで実にのんびりした気分になります。相手にしていると、せかせか働いていることが馬鹿らしくなります。

ビーバーのような生活性質をちょっと見習っていいかもしれませんね。

（松永恵美）

61年度行事予定表

行 事 名	実施時期	内 容
動物映画会	毎週	動物を理解していただくため上映します。但し、上映できない週もあります。
動物紙ねんど教室	春	紙ねんどで動物を作ります。
ZOOクイズラリー	春秋	動物を見ながらクイズに答えます。
サマースクール	夏	体験学習の一環として、飼育実習を行ないます。
動物写生教室	夏	動物公園の動物を写生します。
動物愛護週間特別展	秋	野生動物を広くハネル等で紹介します。
動物作文コンクール	秋	動物とのふれあいを題材にした作文を募集します。
動物写真コンクール	秋	動物公園で撮影した写真を募集します。
新春特別展	冬	干支にあなただ動物をハネル等で紹介します。



- ▶開園時間 午前9:30～午後4:30 (入園時間は午後4:00まで)
- ▶入園料 大人(高校生以上)500円 小人(小・中学生)100円 小学生未満無料 (団体) 有料人員30名以上は2割引
- ▶休園日 月曜日(月曜が休日のときは翌日) 年末年始12月29日～1月3日
- ▶駐車料金 普通車500円 大型車2,000円

(どうぶつこうえんニュース)
第3号(昭和61年3月1日発行)

●編集 千葉市動物公園

●発行 (財)千葉市動物公園協会

〒260 千葉市源町280番地 ☎0472-52-1111(動物公園)

☎0472-52-1221(協会)